

めなかったが、肺転移巣は石灰化を伴うものの、すべて粟粒大の大きさで、病変が小さいために検出できなかったものと考えられた。

骨シンチグラフィは、骨肉腫の骨転移のみではなく、骨外転移の検出にも有用なことがあり、骨肉腫の転移巣の検索に有効と思われた。

16. ^{99m}Tc ガラクトシルヒト血清アルブミン (GSA) が高度に集積した高分化肝細胞癌の 1 例

白石 慎哉 坂口 達哉 吉松 俊治
(熊本地域医療セ・放)
富口 静二 高橋 睦正 (熊本大・放)

症例は、60 歳女性、C 型肝硬変の患者である。腹部超音波検査にて肝 S4-8 に径 15×25 mm の低エコーの腫瘍を認め、CT・MRI にて、同部に血流のやや乏しい腫瘍を確認した。 ^{99m}Tc -GSA による SPECT 像にて、腫瘍に正常肝実質より著明に高い RI の集積が認められた。針生検による病理組織像にて典型的な高分化型肝細胞癌であった。

肝細胞癌には通常アシアロ糖蛋白レセプターは存在しないといわれている。アシアロ糖蛋白レセプターが肝細胞より多く存在すると考えられた肝細胞癌の 1 例を経験したので報告する。

17. 当施設における RI 機器処理装置のデータフォーマット統一の試み——その臨床・運用的側面における有用性——

中別府良昭 土持 進作 小林 正和
日野 祐一 中條 政敬 (鹿児島大・放)
福島 昇 禧久 豊嗣 (同・放部)
高橋 宗尊 (島津製作所)

SCINTIPAC2400 と 24000 (島津) (以下 2400, 24000) と ODYSSEY (島津) をネットワーク (イーサネット (10BASE 2), TCP/IP) で接続 (ただし 2400 とワークステーション (titan2) 間は DMA 転送), 24000 のデータは ODYSSEY 上で専用のソフトで変換, 2400 は titan2 に転送後, フォーマット変換を titan2 で行いディスクを ODYSSEY よりリモートマウントすることにより, ODYSSEY 上で処理が可能とし, これによる, 臨床・運用面における有用性を検討した. 処理速度は 24000 や 2400 で行うより大幅な改善がみとめられ, 臨床・運用面で有利と考えられた.